

平成30年

季刊

夏季号

Vol.66

亞東



衛藤新会長 謝長廷閣下を表敬訪問（平成30年6月5日）



一般社団法人亞東親善協会

The East Asian Friendship Association

一般社団法人亜東親善協会の概要

名称 一般社団法人亜東親善協会

(英文名 The East Asian Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七—四 砂防会館別館

二階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との

経済、文化の提携、交流を通じ、友好親善の増進を図る。

事業

① 我が国とアジア地域諸国との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 我が国とアジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介

③ 我が国とアジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋

④ 我が国に在住するアジア地域諸国民の生活相談

⑤ アジア地域諸国からの在日留学生にたいする進学の斡旋

⑥ その他本会の目的を達成するために必要な事業

亜東親善協会の変遷

社団法人亜東親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で一九四九年 東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、一九七二年の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち一九七一年、千葉三郎先生(衆議院議員)は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り、留日華僑有志の方々が協力され、自ら発起人となり同年五月二十九日外務省認可『社団法人亜東親善協会』を設立致しました。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、その後、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が会長を務められました。

平成二四年一月六日「一般社団法人及び一般財団法人の認定等に関する法律」の施行に伴い一般社団法人としての認可申請が受理され、平成二五年四月一日より一般社団法人として再スタートいたしました。

日本を含むアジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。かかる情勢の中、二〇一二年五月、元内閣総理大臣安倍晋三先生を会長にお迎え致しました。同年一月安倍政権が発足、会長の内閣総理大臣復帰に伴い退任され、会長代行の大江康弘参議院議員が就任されました。二〇一八年五月からは元衆議院副議長の衛藤征士郎先生が会長に就任されました。

現在、アジアでは領土紛争、北朝鮮の核問題、水・エネルギーや環境問題など山積しています。アジアの繁栄と平和貢献のため会員一同、新会長のもと、叡智を結集し努力を続けています。

一般社団法人亜東親善協会・概要・変遷	二頁
目次・協会役員名簿	三頁
西日本豪雨災害に台湾總統から温かい支援の声	四頁
平成三〇年度第六回通常総会終了の報告	五頁
平成二九年度事業報告	六頁
決算報告書	九頁
「亜東親善協会」懇親会	一五頁
亜東親善協会・衛藤新会長	一六頁
衆議院議員 衛藤征士郎先生講演録	一七頁
第三回 台湾フェスタ二〇一八年	二三頁
平成三〇年春の外国人叙勲	二五頁
花蓮地震への義援金にお礼状	二六頁
暑中見舞い広告	二七頁
事務局だより・新入会員のご紹介	三一頁

平成30年5月9日

役員名簿

名誉会長	玉澤徳一郎							
会長	衛藤征士郎							
副会長	張建国	張多	碧華	忠和				
	山本順三							
	並木正芳							
専務理事	赤松 則宏							
業務執行理事	並木 正芳	藤山 雅康						
	柴田 徳文	笹岡 恭亮						
理事 20名	衛藤征士郎	張 建国	張 碧華	山本 順三	多 忠和			
	並木 正芳	赤松 則宏	崎谷 秀彦	藤山 雅康	小松 省二			
	益山 茂	伊野 雅晴	柴田 徳文	笹岡 恭亮	森 康郎			
	岩城 光英	平野 達男	榎本 有里	金子 万寿夫	富田 家彰			
監事	1名	李 ハロルド						
事務局		崎谷 秀彦						
		李 孔曉						

一般社団法人 亜東親善協会

西日本豪雨災害に台湾總統から温かい支援の声

西日本を中心に甚大な被害をもたらしている記録的豪雨は十日現在までに、一二府県で一三〇人以上が死亡するなど豪雨災害の死者数としては平成最悪の被害となった。

警察・消防・自衛隊などが懸命の捜索、救助活動を続けているが、今後も犠牲者の数はさらに増える可能性がある。

こうした中、海外からも日本に温かい手を差し伸べるメッセージが寄せられているが、お隣の国で世界一の「親日国」として知られている「中華民国・台湾」の蔡英文（ツァイ・インウエン）總統から七日夜、ご自身の公式アカウントから左記のような投稿がツイートされました。

『西日本を中心に発生した豪雨に遭われた日本国民の皆様にお見舞い申し上げます。被害に遭われた方々の回復と被災地の早期復旧をお祈り申し上げます。』

台湾でも豪雨被害は頻発しており、我々もその被害の深刻さを身をもって経験しています。台湾は日本が必要とするあらゆる支援を行う用意があります。』

なんと心温まるメッセージなのでしょう。台湾でも、地震や台風・豪雨などで大きな被害を受けていることが、たびたび日本のニュースでも取り上げられます。その台湾が今回もいち早く、日本への支援を表明してくれました。

しかも台湾からは「東日本大震災」に際しても、メッセー

ジのみならず、二五〇億円を超える莫大な義援金を寄せていただきました。

それらは、①外交部や地方自治体など政府機関から約二八億円、②慈善団体や機関団体が集めたもの約二〇〇億円、③長栄集団（エバーグリーン）会長・張栄発氏（一三億五千万円）や日本台湾交流協会など直接日本に届けられた個人や団体からのもの約二四億円など合計約二五三億円に上るが、二三〇〇万余の人口の国から世界一の義援金という金額はもとよりその友情に被災者も日本人もどれだけ元気づけられたことでしょう。

今後もこの厚い友情を一層高めて行かねばなりません。



平成三〇年五月吉日

一般社団法人 亜東親善協会

事務 局

会員各位

平成三〇年度第六回通常総会終了の報告

拝啓 青葉若葉の候、会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、去る五月九日に開催しました当協会の第六回通常総会には各位のご協力を得まして、下記の通り全議案を滞りなく承認可決致しました。

就きましては、今後とも、会員一同並びに関係各位の協力のもとに、総会決議に基づき、各種の事業活動を一段と活発に進めてまいれる所存でございます。

何卒、尚一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

先ずは、総会終了のご報告方々ご挨拶申し上げます。

敬具

記

(出席者) 一六二名(委任状を含む) 定款第一五条第一項の規定により適法である旨 を事務局より報告。

張建国氏が議長に選出され総会議事に入った。

議事録署名人選出の件について議長が計り、森康郎、榎本

有里氏兩名が選出されました。

(決議事項)

第一号議案 平成二九年度事業報告承認の件

第二号議案 平成二九年度収支決算報告承認の件

以上の各議案について監査報告がなされ、それぞれ報告書の通り承認可決されました。

第三号議案 任期満了に伴う理事、監事選任の件について推薦委員より経過報告がなされ、承認可決されました。

その他 事項報告

「平成三〇年度事業計画」並びに「平成三〇年度予算」につきましては、新法人法により理事会承認事項となり三月二三日理事会において承認されましたこと報告しました。

平成二九年度事業報告書

〔平成二九年四月一日から平成三〇年三月三十一日まで〕

当協会が本年度の事業計画に基づいて実施した各種事業活動について、その主な事項をご報告申し上げます。

一、組織の強化及び会員の増強

新法人への移行六年目を迎え、会員の増強並びに協会組織力の強化に努めた。

二、会員の移動状況

新加入会員二五名

三月三十一日現在会員総数三二〇名

(個人、法人、賛助、団体会員を含む)

三、親善交流・文化活動

親善交流の基本理念として相互の歴史、伝統文化の理解がより一層の交流を深める、その為の各種会活動、研修会、講演会等の開催と共に活発な文化活動の推進、本年も留学生を始め若者との交流会を実施した。

四、具体的な事業

(イ)講演会の開催

(一) 事業の趣旨

当法人は、民主主義と自由を信条とする東アジア地域諸国との政治、経済文化に関する調査研究及び講演

会、研究会の開催並びに研究資料の出版、及び社員相互の親睦を図ることを目的として、その目的を達成するため、次の事業を行う。

(二) 事業内容

学識経験者に講師を招聘している。

(a)講演の内容…「東日本大震災と次の災害に備えて」

講師 師…参議院議員 平野 達男 先生

日時…平成二九年五月一〇日(木)

会場…ルポール麹町 二階ルビー

参加人員…九〇名

(b)講演の内容…「二〇一八年安倍政権の課題と展望」

講師 師…政治解説者 篠原 文也 先生

日時…三〇年二月八日(木)

会場…ザ・キャピトルホテル東急 1F『桐の間』

参加人員…一〇〇名

(ロ)社会見学

(二) 事業の趣旨

本事業は定款第4条の根拠に基づき在日留学生等により、日本を理解して貰うべく社会見学をとうして意見交換をして親善交流に役立てるものである。

(二) 事業内容

在日留学生を中心に若い人達の要望にそって可能な範囲で施設、関係機関等の見学会、勉強会を実施してい

る。

二九年一月一三日(水) 留学生を対象に国会見学と衆

参両院議員の先生方と懇談会
を開催した。

参加人員四五名

三〇年 二月二八日(水) 会員を対象に東京都内の唯一

の在日華僑子弟教育機関であ
る「東京中華学校」を訪問参
観、学校の校長先生との懇談
会を開催した。

参加人員一八名

六、日台親善交流の旅

平成二九年一〇月二五日(水) ～ 一〇月二七日(金) 二

泊三日間

平成二九年度事業計画に基づき台湾訪問団を実施、一七
名の参加、高雄議會表敬訪問、立法院院長蘇嘉全表敬訪
問

台湾日本關係協會秘書長張淑玲主催歓迎夕食会

亜東親善協會主催外交部主任秘書蔡明耀、日本台湾交流

協會横田光弘副代表との昼食会懇談会

關係機関への表敬訪問及び友好親善に努めた。

七、会報「亜東」の発行

季刊「亜東」として年四回(春、夏、秋、新春)の発行で

各回一、〇〇〇部、但し新春号二〇〇部増刷) 会員他、

關係各位に配布。

八、会議の開催

二九年 四月一日(火) 業務執行会議 協会事務所

〃 四月一日(火) 定例理事会 砂防会館会議室

〃 五月一〇日(木) 平成二九年度通常総会

ルポール麹町

〃 九月 六日(水) 業務執行会議 協会事務所

〃 九月 六日(水) 定例理事会 砂防会館会議室

〃 一二月 七日(木) 定例理事会 明治記念館

三〇年 一月二四日(水) 業務執行会議 協会事務所

〃 一月二四日(水) 定例理事会 砂防会館会議室

〃 二月 八日(木) 臨時理事会

ザ・キャピトルホテル東急

〃 三月二三日(金) 業務執行会議 協会事務所

〃 三月二三日(金) 定例理事会 砂防会館会議室

九、会の諸活動・事業報告

二九年 四月 八日(一財) 台湾協会交礼台湾の会に理事

出席祝意を表す

〃 四月 九日 崇正公会懇親大会出席、祝意を表す

〃 六月 七日 当協会赤松専務理事のご令室葬儀に

弔意を表す

大江会長、理事多数列席

- 〃 八月 九日 夏休み台湾から留学生の国会見学をアテンド
- 〃 一〇月 二日 横浜華僑総会主催双十節慶祝大会に祝意を表す
- 〃 一〇月 三日 大阪代表処主催双十節慶祝大会に祝意を表す
- 〃 一〇月 四日 当協会理事松永理恵子氏葬儀に弔意を表す
- 〃 一〇月 四日 大江会長、崎谷理事列席
- 〃 一〇月 四日 台北駐日経済文化代表処主催国慶節大会に多数の理事出席、祝意を表す
- 〃 一〇月 六日 台北駐大阪経済文化代表処主催国慶節大会に祝意を表す
- 〃 一〇月 八日 東京華僑総会主催双十節慶祝大会に大江会長出席、祝意を表す
- 〃 一〇月二八日 日本華商総会副理事長林三統氏偲ぶ会に弔意を表す
- 〃 大江会長列席
- 三〇年 一月二二日 台北駐日経済文化代表処謝長廷代表を表敬、年頭の挨拶を行った
- 〃 大江会長他理事八名同席
- 〃 二月 九日 台湾花蓮大地震義援金を台北駐日経済文化代表処へ大江会長が届ける



決 算 報 告 書

平成 2 9 年度

平成 2 9 年 4 月 1 日
平成 3 0 年 3 月 3 1 日

1. 正味財産増減計算書
2. 貸借対照表
3. 財産目録書
4. 財務諸表 注記事項
5. 会計業務監査報告書
6. 収支予算書

東京都千代田区平河町2丁目7番4号
砂防会館 別館2階
一般社団法人 亜東親善協会

正味財産増減計算書
平成29年 4月 1日から平成30年 3月31日まで

法人名：一般社団法人 亜東親善協会
事業名：事業全体

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
經常増減の部			
經常収益			
受取会費	9,813,935	7,829,568	1,984,367
個人会員受取会費	3,880,000	2,290,000	1,590,000
法人会員受取会費	3,150,000	3,550,000	△400,000
交流活動協力金	2,783,935	1,989,568	794,367
事業収益	2,800,000	2,000,000	800,000
行事関係会費	2,220,000	1,430,000	790,000
広告掲載	580,000	570,000	10,000
雑収益	16	16	0
受取利息	16	16	0
經常収益計	12,613,951	9,829,584	2,784,367
經常費用			
事業費	6,137,452	5,391,842	745,610
行事費	2,237,176	1,313,618	923,558
季刊亜東印刷費	890,676	920,152	△29,476
講演演会費		738,544	△738,544
社会見学費	54,480	444,889	△390,409
交流活動費	2,955,120	1,974,639	980,481
管理費	6,036,346	5,124,545	911,801
給料手当	2,460,700	2,076,750	383,950
会議費	217,390	111,929	105,461
旅費交通費	282,440	219,474	62,966
通通信費	196,461	184,988	11,473
事務消耗品費	446,221	192,610	253,611
支払手数料	165,016	81,698	83,318
賃借料	1,902,881	1,869,963	32,918
渉外費	285,237	274,133	11,104
租税公課	80,000	113,000	△33,000
經常費用計	12,173,798	10,516,387	1,657,411
当期經常増減額	440,153	△686,803	1,126,956
經常外増減の部			
經常外収益計	0	0	0
經常外費用計	0	0	0
当期經常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	440,153	△686,803	1,126,956
一般正味財産期首残高	1,652,003	2,338,806	△686,803
一般正味財産期末残高	2,092,156	1,652,003	440,153
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	2,092,156	1,652,003	440,153

貸借対照表

平成 30 年 3 月 31 日現在

法人名：一般社団法人 亜東親善協会

事業名：事業全体

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資 産 の 部			
流 動 資 産			
現 金 預 金	1,693,428	1,255,595	437,833
現 金	112,095	11,737	100,358
普 通 預 金	1,354,340	966,465	387,875
郵 便 貯 金	226,993	277,393	△50,400
流 動 資 産 合 計	1,693,428	1,255,595	437,833
固 定 資 産			
そ の 他 固 定 資 産			
電 話 加 入 権	108,858	108,858	
敷 金	300,000	300,000	
そ の 他 固 定 資 産 合 計	408,858	408,858	0
固 定 資 産 合 計	408,858	408,858	0
資 産 合 計	2,102,286	1,664,453	437,833
II 負 債 の 部			
流 動 負 債			
預 り 金	10,130	12,450	△2,320
流 動 負 債 合 計	10,130	12,450	△2,320
負 債 合 計	10,130	12,450	△2,320
III 正 味 財 産 の 部			
一 般 正 味 財 産	2,092,156	1,652,003	440,153
正 味 財 産 合 計	2,092,156	1,652,003	440,153
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	2,102,286	1,664,453	437,833

会計監査報告書

一般社団法人 亜東親善協会

各 会 員 殿

平成30年 4月27日

一般社団法人 亜東親善協会

監 事 李 ハロウ

監 事 鈴木 慶一

私たちは、平成29年4月1日から平成30年3月31日迄の会計年度における
会計及び業務の監査を行い次のとおり報告する。

1 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧等必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧等必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。
- (3) 公益継続事業の講演会並びに社会見学等については、全て滞りなく円滑に業務が遂行し完了したと判定する。

2 監 査 意 見

- (1) 正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告の内容は真実であると認める。
- (3) 理事の職務執行に関する不正な行為又は法令もしくは寄付行為に違反する重大な事実はないと認める。

平成30年度事業計画書

〔平成30年4月1日～平成31年3月31日〕

会議の開催

30年4月	定例理事会
5月	通常総会
9月	定例理事会
31年1月	定例理事会

事業

当法人は、民主主義と自由を信条とする東アジア地域諸国(主に隣国台湾)との政治、経済文化に関する調査 研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版、及び会員相互の親睦を図ることを目的として、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1)我が国と東アジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介
- (2)我が国と東アジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の 収集及び斡旋
- (3)我が国に在住する東アジア地域諸国民の交流事業
- (4)東アジア地域諸国からの在日留学生に対する交流事業
- (5)季刊「亜東」として年4回(春、夏、秋、新春)発行1,000部、会員外、関係各位に配布(観光協会、中華学校、等)
- (6)継続事業の推進、本件事業についてホームページ広報誌を活用し事業活動の広報に努め巾広く参加を呼びかける。
- (7)後援、協賛事業の推進
友好団体との事業(講演会、研修会など)の後援、協賛を今後とも積極的に推進して行く。(一般財団法人台湾協会との合同社会見学をします)

前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業を実施する。

収 支 予 算 書

平成30年 4月 1日から平成31年 3月31日 (決算) まで

法人名：一般社団法人 亜東親善協会

事業名：事業全体

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
事業活動収入				
会費収入	9,900,000	8,400,000	1,500,000	
個人会員会費収入	3,800,000	2,400,000	1,400,000	
法人会員会費収入	3,600,000	4,000,000	△400,000	
交流活動協力金収入	2,500,000	2,000,000	500,000	
事業収入	2,920,000	2,150,000	770,000	
行事関係会費収入	2,220,000	1,500,000	720,000	
広告掲載収入	700,000	650,000	50,000	
雑収入	5	0	5	
受取利息収入	5	0	5	
事業活動収入計	12,820,005	10,550,000	2,270,005	
事業活動支出				
事業費支出	5,230,000	4,570,000	660,000	
行事費支出	1,400,000	1,400,000	0	
季刊亜東印刷費支出	980,000	950,000	30,000	
講演会費支出	350,000	150,000	△150,000	
社会見学費支出	350,000	70,000	280,000	
交流活動費支出	2,500,000	2,000,000	500,000	
管理費支出	5,920,000	5,427,000	493,000	
給料手当支出	2,480,000	2,300,000	180,000	
会議費支出	230,000	120,000	110,000	
旅費交通費支出	220,000	220,000	0	
通信費支出	250,000	185,000	65,000	
事務消耗品費支出	200,000	150,000	50,000	
支払手数料支出	250,000	82,000	168,000	
賃借料支出	1,920,000	1,950,000	△30,000	
渉外費支出	300,000	300,000	0	
租税公課支出	70,000	120,000	△50,000	
事業活動支出計	11,150,000	9,997,000	1,153,000	
事業活動収支差額	1,670,005	553,000	1,117,005	
II 投資活動収支の部				
投資活動収支差額	0	0	0	
III 財務活動収支の部				
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出				
当期収支差額	1,670,005	553,000	1,117,005	
前期繰越収支差額	1,652,003	1,652,003	0	
次期繰越収支差額	3,322,008	2,205,003	1,117,005	

「亜東親善協会」懇親会に謝長廷・駐日代表が出席

台北駐日経済文化代表処の謝長廷・代表は五月九日、都内で開催された「一般社団法人 亜東親善協会」の懇親会に出席され、懇親会の前に開かれた総会で新しく同協会の会長となった衛藤征士郎・衆議院議員に対し、これまで台湾の「包括的および先進的環太平洋パートナーシップ協定」(CPTPP)、「世界保健機関 (WHO) 年次総会 (WHA)」などへの参加のために尽力されてきたことに感謝の意を表されました。

日台間の地方交流についても、自身が着任以来、日本の四七都道府県を全て訪問し、至る所で絆の深さを感じたことなどを紹介され、「衛藤会長をはじめ同協会の会員各位と共に、より一層高いレベルで緊密な台日関係を築いていきたい」と述べられました。

衛藤・新会長は、日台間の発展、安定と平和のために尽力していく考えを示し、この日の懇親会を通して、「双方間の絆がより一層強くなるようにしていきたい」との期待を述べました。

日本中華聯合総会の新垣旬子・会長は、「台湾のWHOおよびWHAへの参加は我々の悲願だ」と強調され、台湾の参加に対する日本の支持に感謝の意を表しました。

懇親会には、同協会の理事となった金子万寿夫・衆議院議員、伊東良孝・衆議院議員らもあいさつし、日本台湾交流協

会の柿澤未知・総務部長が乾杯の音頭をとりました。この日は衛藤会長が新しく就任したこともあり、ひとときわ活気ある懇親会となりました。

《二〇一八年五月一〇日》

(台湾週報参照)



亜東親善協会・衛藤新会長

日台のFTA締結を懇願

衆議院議員の衛藤征士郎氏がこのほど亜東親善協会の新たな会長に就任した。五月九日にルポール麹町（東京都千代田区）で行われた同会の第六回通常総会にて決議され、「日本と台湾が自由貿易協定（以下…FTA）の締結を一刻も早く締結するよう」懇願した。

衛藤氏は本紙の取材に対し、今後のさらなる日台関係構築には「FTA締結こそが今後の重要課題である」と指摘。「この締結が成功すれば、（日台関係の）道が一気に広がる。日本政府は真剣に考える必要がある」との自身の見解を述べ



新会長就任の挨拶する衛藤征士郎氏

た。現在ではFTA締結実現に向け、外務省や財務省、農林水産省など行政機関に働きかけているという。

これまで衆議院議員の副議長や防衛庁長官など政治界においても重要なポストを歴任してきた衛藤氏。東日本大震災の被災者支援に尽力した台湾に対し感謝の意を示すため、副議長就任時の二〇一一年五月に台湾を訪問した際は、「衆参両院の正副議長の台湾訪問は一九七二年に日本と台湾が断交して以来初」として、注目を浴びた。また、日台関係強化を目的とした議員連盟・日華議員懇談会の副会長としても、日台関係発展に長年貢献している。

総会には台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表、各部署の幹部らが来賓として招かれ、このほか日台関係を担う地方の国会議員や市議会議員ら多数が出席した。謝代表は挨拶で「同協会の皆とともに、より一層レベルアップし、日台関係を強化していく」と支持した。

同協会はアジアの平和と繁栄を希求し友愛と信義を基調とした国際関係の樹立を目的に一九四九年に発足。二〇一三年より、これまでの社団法人から一般社団法人に移行され、その第一回通常総会で選出された大江康弘氏が五年間会長を務めていた。

「台湾新聞より抜粋」

衆議院議員 衛藤征士郎先生講演録

【平和の礎・日本と台湾】



平成三〇年五月九日
会場 ルポール麹町

《講師 プロフィール》

昭和一六月四月 大分県玖珠郡玖珠町日出生出身

昭和四一年三月 早稲田大学政経学部卒業・同大学院修了

了

昭和四六年四月 大分県玖珠町町長当選、二期

昭和五二年七月 参議院議員（大分地方区）に当選、一期

期

昭和五八年一二月 衆議院に初当選 以後一二期連続当選

平成七年八月 国務大臣防衛庁長官（第二次村山内閣）

平成二一年九月 衆議院副議長（第六四代）就任

役職

自民党 外交調査会長

自民党 税制調査会 副会長

ただいまご紹介に預かりました、衆議院議員の衛藤征士郎でございます。先ほどご挨拶を申し上げましたが、亜東親善協会の会長に就任致しまして覚悟新たにしておりますので宜しくお願い致します。

今日は、衛藤征士郎という者がどういう者であるか皆さまはお分かりでないと思いますので、さりとて私と台湾との関係につきましてお話ししていきたいと思えます。

今回の会長就任にあたりまして所見を述べるようにという事ではありますが、私は学生時代から今日まで台湾との関係ではいろいろなと交流を深めて参りました。その思い出も踏まえながらお話ししたいと思います。

一九六五年に日韓基本条約が締結されました。私は都内の選抜学生として調印されたその時韓国に参りまして、その目的は南北に分断されたところの三八度線の視察（板門店）とその地下トンネルの視察に行つてまいりました。改めて、朝鮮半島の平和、安定、厳しさを身に染みて感じた次第でございます。

私が大学四年生時に母校の早稲田大学が、中華民国に親善使節団を公式に台湾に派遣致しました。総長は大濱信泉（しんせん）こと大濱信泉（のぶもと）先生であり、私がこの使節団の団長に選任され約二週間に渡り台湾の大学等々訪問いたしました。学生達と親善交流を深めたわけであり、これが私と台湾との出会い、きっかけであります。私共の使節訪問団

は各地で大歓迎を受け、高い評価を受けまして出来るならば毎年来て欲しいと要請を受けました。この要請を受けましてその後数年にわたり都内の学生に働きかけて親善使節団を編成して、自ら団長となり台湾の大学と一部の高校（高雄の商業高校）に訪問し親善交流を深めたわけであります。

当時、黄朝琴先生が台湾省議長であり、蔣経国総統にお目にかかり、また高玉樹台北市長や謝東閔・張建邦学長など層々たる方々の敬愛に接することが出来まして、本当に忘れがたい思い出であります。

特に淡江大学には何度も訪問し、台中の東海大学にも我々が日本から持ち込んだ桜が記念植樹してあります。その淡江大学と東海大学には友好のシンボルとして我々の桜が大きく咲いているというわけです。東海大学の学長からは、「議員室に泊まって行かないか」と言われ私個人一人ですが議員室に宿泊したのも懐かしい思い出であります。

私は、木を植えるのが好きで大分県大分市の県木である「豊後梅」を陽明山にすっかり植えて参りました。そのようなご縁もありまして東日本大震災時には、震災から約一ヶ月後に王金平台湾立法院議長ご一行が来日され、福島県の被災地に赴かれました。五日間現地に滞在している間に被災した方々に直接お見舞いの言葉を掛けられるのと、議長ご一行が自らボランティア活動に参加され汗を流されました。ですがその様子はほとんど新聞には取り上げられずなんとも冷たい

なと思いましたが、その義援活動に感服致しまして、翌年には被災した議員と共に義援活動の返礼の為、訪台し台中国立公園に「感謝と返礼の木」として桜と梅の木を記念植樹して参りました。

私が外務副大臣に就いたことがありました。その際、李登輝総統の来日に際しまして誠に申し訳ないことがございました。それは李登輝総統の病気の治療の為に手術が必要ということで訪日するためビザの申請をしたのですが、外務大臣と私の意見に相違がございまして、外務省が大混乱したことがございました。その時の大臣は河野洋平外務大臣でありまして、私は国際法上・人道上からみて李登輝元総統のビザの発給はなんら問題ないと譲らず、一方で河野外務大臣は絶対にダメだと言い張り、最終的には総理官邸に持ち込まれることになりました。当時の森総理と福田官房長官から大臣の言に従って欲しいと直接進言、要請がありました私には頑として譲らず、結局は李登輝総統のビザが発給されたのですがこの時の混乱は大変に恥ずかしく今でも李登輝先生に申し訳なく、お詫びを申し上げたいと思っております。

二〇〇二年九月二四日に総統府におきまして、小生思ひもかけず図らずも中華民国台湾政府から外国人に贈られる最高位の勳章「中華民国大樹京成勳章」授与の光栄に浴しました。この栄えある勳章の叙勲に値するかは誠に汗顔の至りですが、この輝かしい「大樹京成勳章」の名を汚さぬよう勳

章の片鱗を担って、その責任と使命に徹して今後の日台関係の発展に全力で取り組む覚悟であります。

日本と台湾との間に国交がないことは極めて残念で遺憾至極であります。しかし私はこの厳しい現実にも真正面から立つて日台の為に最善を尽くす覚悟であります。私は現職国会副議長として中華民国台湾を訪問いたしました。米国の様に双方の高官が相互に自由に訪問できるような確固たる手立てを考えなければいけません。政治分野と同様に経済分野での交流は日台にとって極めて大事であります。貿易立国日本は環太平洋経済連携協定（TPP）また欧州連合との経済連携協定（EPA）にまっしぐらに突き進んでいます。一方台湾はTPPに参加を表明され強く望まれています。日本はアメリカが離脱したTPP11のリーダーとして台湾の加盟に全力を挙げなければなりません。

さて予てより日台間で日台自由貿易協定（FTA）の締結に向けた協議が行われておりますが、協議のさなか東日本大震災が発生し、震災後の日本からの農作物輸出問題が発生しており協議が中断、停滞しております。私はこのテーブルづくりに関わったものですから、この日台FTA協議の進展の為に双方でさらなる努力をして行かなければなりません。日台のFTA締結は、世界貿易機関（WTO）の規範に何ら抵触するものではありませんから確信をもってこのFTAを推し進めなければなりません。

私は一方で日華懇談会の顧問であります。あえてこの場所をお借りしまして謝長廷駐日大使に衷心より敬意を表して感謝を申し上げたいのであります。謝長廷大使は日本に着任して一週間以内に熊本県・大分県を表敬されました。大分では二泊三日滞在し、大分各地や被災地を訪問、被災者の方々へ直接お見舞いの言葉や激励をされたのであります。謝長廷代表は台湾の高雄市長、与党の党代表、行政長官（首相）を歴任されるなど傑出した超大物の政治家でございます。その卓



越した initiative とリーダーシップのもと日台関係が大きく進展することを確信しております。また私たちの亜東親善協会も日台の絆をより強くより太くすることに貢献することを確認しております。

日本が台湾の安定と平和の為に資する道は何かとい

うと、日本の政治が安定することであり、日本の政治、経済、文化、芸術といろいろありますが、国家存立の根幹は外交と国防、教育等にあります。とりわけ今日は外交と国防が国家存立の根幹を惜しむものにあると思います。しかるに日本が外政と内政にあつて何を最優先すべきかを問いたただす必要があります。外交に関しては日米同盟を強固にし、質的レベルアップを図る事が日米同盟の根幹として日米安保があるので、台湾の安定の平和に大きく関与していることはお分かりかと思ひます。ですから日米両国民が真に理解し真の日米同盟を確立していかなければなりません。

日米安保条約第五条に「日本の現憲法の下では日本が外国から攻撃を受けた場合米国が日本を守らなければならない」と義務規定が記載されており第六条にはその代わり米軍に基地を提供しなければならないと記載されており、米軍基地は現在大小合わせて七八箇所あり、多くは沖縄にある事は周知していると思ひますが、これも本当に日米安保条約をしつかり検証し、これから先の日本の外交を確立していくためにも日米地位協定の改善と改正も考えていかなければなりません。

敗戦国ドイツ、イタリアでは憲法をそれぞれ改定し、厳しい主権の無い時にドイツ、イタリア、日本の憲法が制定されました。

その中で日本では沖縄県においては、オスプレイが墜落、

不時着した場合でも現在の日米地位協定では日本の警察、消防が調査できないのが現状であります。それに対して不満があるのは当然であり、例えば東京の空も地上から二四五〇mは米軍がコントロールしています。同じように神奈川県や山梨県も同様であります。このようなこともそろそろ見直していかなければなりません。事故の際はドイツやイタリアと同様に政府が調査するか、日米合同調査団として事件解明調査するなどが当然であり、外交改革として確立し取り組んでいかなければ私も台湾の平和と安定に貢献しますと胸を張れません。

さて、外交の面で言えることは日本と北朝鮮の国交正常化をしなければなりません。拉致問題の完全解決、拉致被害者を奪還しなければ日本は北朝鮮と国交正常化しないというのが基本方針であります。現在北朝鮮と国交がない国は日本、アメリカ、フランスのみですが、フランスは平壤に文化センターを建設し実質交流があるため、国交がないのは日本とアメリカのみであり、朝鮮動乱を引きずっている為今日があるわけであります。

北朝鮮と国交がないために日本国政府として二〇〇二年の平壤宣言から、ミサイル、核開発、拉致問題を同時に解決することを北朝鮮側が進めないために国権の最高機関の国会が制裁決議や抗議決議をするというのが繰り返しているわけであります。

力、政党力に問題があるという事ではないかなと、自問自答し反省しております。我々はこのようなことをしっかり検証しながら国づくりを進めていかなければならないと思っております。

外交、内政、日本の進路、国民に理解して頂くための国際の軸足、あるいは日米同盟等の国際軸、国家の軸、地方の軸、国民生活軸を踏まえて、これから頑張っていかなければならないと強く感じております。一層に日本と台湾でスクラムを組んで頑張っていきたいと思っております。

日本の進むべき道はアジアにおける台湾こそアジアの安定と平和の鏡でありキーストーンであるのは間違ありませんし、台湾がますます発展し自主、自由、民権と大きく進展するためには我々が役に立つことがあれば何でもするつもりで頑張りたいと思います。

結びにこの亜東親善協会千葉三郎先生の熱き思いをしつかりかみしめながら私も微力ではありますが皆さんのご指導ご鞭撻を頂き頑張ります。そして次の会長にバトンタッチするその間力いっぱい頑張りますので宜しくお願ひ致します。

ご清聴ありがとうございました。



「第三回 台湾フェスタ二〇一八代々木公園」の後援のお礼とご協力をお願い。

台湾フェスタ実行委員長・亜東親善協会業務執行理事

笹岡（朱） 恭亮

盛夏の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

（一社）亜東親善協会におきましては設立以来、日本と中華民国台湾の交流の中心的な役割を果たしていただきました。

またこの度は華僑の二世、三世が中心となって開催する「第三回台湾フェスタ」にご後援をいただき心より御礼を申し上げます。

「台湾の魅力発見！台湾フェスタ代々木公園」は二〇一一年の中華民国建国一〇〇年を迎える年に、代々木公園にて第一回の開催を予定していました。しかし、その年に日本の東北地区では東日本大震災が発生し、日本は大きな被害を受けその年の一〇〇年の建国イベント「台湾フェスタ二〇一一」は中止となりました。この災害を知った台湾からは、国民の多くの人達から集めた寄付が義援金として二〇〇億円を超える多大な金額を送ってくれたのです。この事で、日本と台湾はさらに強い友好関係が築かれました。

その後の良好な日台関係ということもあり、五年後の二〇一六年、在日華僑の二世、三世が中心となり、台湾の方、

日台交流を応援して下さる日本人を始めとする多くの人達と協力して「第一回台湾フェスタ代々木公園」、二〇一七年には第二回を開催いたしました。お陰様で多くの方々にご来場いただき、大変盛況なうちに日台交流イベントとして成果を上げることとなりました。多くの方々のご協力、本当にありがとうございます。



さて、本年二〇一八年は、現在では日本と台湾の旅行者数は七〇〇万人を突破するような数になり、今後、日本と台湾の渡航者数を増加させるためにも日本の人にも台湾の人にも、もつと両国の事を知ってもらい、さらなる日台交流を推進するために、本年二〇一八年七月二十八日(土)・二十九日(日)二日間「台湾フェスタ代々木公園」を開催いたします。

台湾の「観光・産業・芸能・文化・美食」等の魅力を理解してもらうために野外フェスの「聖地」として知られる代々木公園広場にて無料イベントを開催いたします。

代々木公園に二日間限定のまさに「リトル台湾」が出現します。台湾に訪れたことがある人もまだない人も、バーチャルなネット上では決して味わえない「台湾の魅力発見!台湾フェスタ二〇一八」での「リアルな体験」は、台湾について考え、より理解を深め、日本からの渡航者数を増加させる一つのきっかけをつくっていき、数あるイベントの中でも日本と台湾の更なる交流の橋渡しとして成長させ、国際親善の推進に役立てたいと考えております。

今後とも(一社)亜東親善協会の力強いご後援と皆様のご協力ご賛同をどうぞよろしくお願いいたします



馮寄台・廖了以両氏が叙勲

平成三十年春の外国人叙勲において、元駐日台北経済文化代表処代表の馮寄台閣下と元亜東関係協会会長の廖了以閣下が叙勲の栄に浴されました。

馮 寄台 閣下（七十一歳）

一九四六年十一月十七日生
(Chitai Feng)

国籍・現住所 台湾・台北

賞 賜

旭日重光章

功労概要

日本・台湾間の友好親善及び相互理解の促進に寄与

主要経歴

元 駐日台北経済文化代表事務所代表

現 中信金融管理学院董事長

廖 了以 閣下（七十歳）

一九四七年十月二十九日生
(Liao Liou-yi)

現 中国信託フィナンシャルホールディング最高経営顧問

功労概要

国籍・現住所 台湾・台中
賞 賜

旭日重光章

功労概要

日本・台湾間の友好親善及び相互理解の促進に寄与

主要経歴

元 亜東関係協会（現 臺灣日本關係協會）会長

現 中国信託フィナンシャル

ホールディング最高経営顧問

*** **

平成三十年五月八日午後、

宮中において、「平成三十年春の叙勲 重光章勲章伝達式」が執り行われました。

受章者は、松風の間において、内閣官房長官が侍立する中、内閣総理大臣から勲章と勲記を伝達されました。その後、伝達された勲章を着用した受章者は、配偶者を同伴し、豊明殿において、天皇陛下に拝謁しました。

更に

◎駐日元代表・馮寄台閣下
旭日重光章受章祝賀歓迎会
が都内レストランで開催され、

日本中華聯合總會の詹德薰名誉會長及び新垣句子會長、日本台湾交流協会・谷崎泰明理事長、岸信夫衆議院議員等多数の来賓が駆け付け、馮寄台閣下を祝福しました。

馮閣下は挨拶で「国としては光栄。私個人としては特別な受章」とし、「今回の受章は外交生涯で最高である」と述べられました。

「私が日本の小学校（港区立筈小学校一九五七年卒業）に在学中、その付近のテニスコートで天皇陛下と美智子様（テニスをしているのをよく見に行きました。お二人の成婚式典の様子を白黒テレビで観たことを覚えています。今回、小さい頃から知っている天皇陛下より叙勲を受章することができ、本当に感動でした」と胸中を語られました。

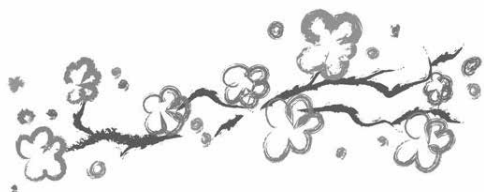
平成三十年五月十一日台湾新聞参照



花蓮地震への義援金にお礼状

去る二月六日夜、中華民國・台湾東部の花蓮県近海で発生した地震災害への亜東親善協会からの義援金に対して台湾政府（衛生福利部＝厚生労働省）から台北経済文化代表処を通してお礼状が届きました。

会員皆様にはご理解とご協力を賜り誠に有難うございました。



一般社団法人 亜東親善協会 御中

謹啓

盛夏の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、二月七日未明に発生した台湾花蓮大地震に際し、ご厚情溢れるお見舞いとご支援を賜り誠にありがとうございます。謹んでお礼申し上げます。

お寄せいただいた義援金はしかと本国政府を通じて被災地の花蓮県へ届けており、それに込められた暖かく力強いお励ましが被災者にとつて何よりも大きな心の支えになることと存じます。お蔭様をもちまして、被災地では救助活動が終了し。総力を挙げての復旧作業が展開され、日常の生活を取り戻しつつあります。

今般、本国政府衛生福利部より義援金の領収書が届いており、同封にてお送り致します。皆様の温かいご支援とご協力に重ねて感謝申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心より願っております。

今後とも助け合い支え合う心で結んでいる台日友好の絆がより一層深まりますよう、変わらぬお力添えのほどお願い致します。皆様の更なるご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

敬具

二〇一八年七月四日

台北駐日経済文化代表処

署中お見舞い申し上げます

平成三十年

<p>台北駐日經濟文化代表處 代表 謝長廷</p>	<p>公益財団法人日本台湾交流協会 理事長 谷崎 泰明</p>	<p>台北駐日經濟文化代表處 那霸分處 處長 蘇 啓誠</p> <p>那霸市久茂地三―一五―九 アルテビル那霸六階 電話〇九八(八六二二)七〇〇八</p>	<p>台北駐日經濟文化代表處 横浜分處 處長 陳 桎宏</p> <p>横浜市中区日本大通り六〇 朝日生命横浜ビル二階 電話〇四五(六四一)七七三七</p>
<p>台北駐大阪經濟文化辦事處 福岡分處 處長 陳 忠正</p> <p>福岡市中央区桜坂三―二―四二 電話〇九二(七三四)二八一〇</p>	<p>台北駐日經濟文化代表處 那霸分處 處長 范 振國</p> <p>那霸市久茂地三―一五―九 アルテビル那霸六階 電話〇九八(八六二二)七〇〇八</p>	<p>台北駐日經濟文化代表處 札幌分處 處長 周 学佑</p> <p>札幌市中央区北四条四丁目一番地 伊藤ビル五階 電話〇一一(二二二)二九三〇</p>	<p>一般社団法人 亜東親善協会会長 衆議院議員 衛藤征士郎</p> <p>東京都千代田区水田町二―二―一 衆議院第一議員会館一〇一号室 新21世紀政治経済研究所 電話〇三(三五〇八)七六一八</p>
<p>自由民主党副幹事長、団体総局長 衆議院議員 井上 信治</p> <p>東京都千代田区水田町二―二―一 衆議院第一議員会館三二七号室 電話〇三(三五〇八)七三二八</p>	<p>衆議院農林水産常任委員長 衆議院議員 伊東 良孝</p> <p>東京都千代田区水田町二―二―一 衆議院第二議員会館六二三号 衆議院第一議員会館六二七号 電話〇三(三五〇八)七一七〇</p>	<p>衆議院議員 奥野 信亮</p> <p>東京都千代田区水田町二―二―一 衆議院第二議員会館一〇一号室 電話〇三(三五〇八)七四二二</p>	<p>衆議院議員 金子 恭之<small>やすし</small></p> <p>東京都千代田区水田町二―二―一 衆議院第二議員会館四一〇号室 電話〇三(三五〇八)七四一〇</p>

署中お見舞い申し上げます

平成三十年

<p>参議院議員</p> <p>鶴保 庸介</p> <p>東京都千代田区永田町二一―一 参議院議員会館三二二号室 電話〇三(六五五〇)〇三三三 FAX〇三(六五五〇)〇三三三</p>	<p>自由民主党経理局長 衆議院議員</p> <p>吉川 貴盛</p> <p>東京都千代田区永田町二一―二 衆議院第二議員会館二二〇二号室 電話〇三(三五〇八)七四五―</p>	<p>衆議院議員</p> <p>古屋 圭司</p> <p>東京都千代田区永田町二一―二 衆議院第二議員会館二二二号室 電話〇三(三五〇八)七〇一― FAX〇三(三五〇八)三八一―</p>	<p>衆議院議員</p> <p>金子万寿夫</p> <p>東京都千代田区永田町二一―二 衆議院第二議員会館二二二号室 電話〇三(三五〇八)七〇一― FAX〇三(三五〇八)三八一―</p>
<p>参議院議員</p> <p>山本 順三</p> <p>東京都千代田区永田町二一―一 参議院議員会館一〇一九号室 電話〇三(六五五〇)一〇一―九</p>	<p>日本中華聯合總會</p> <p>會長 新垣 旬子</p> <p>〒一〇六―〇〇三三 東京都港区六本木七―一五―一三 ダイヤハイツ九〇九号室 電話〇三(六四四七)五〇一三 FAX〇三(六四四七)五〇一四</p>	<p>一般財団法人 台湾協会</p> <p>理事長 森田 高光</p> <p>東京都新宿区新宿六―二九―六 エルツ六七ビル四F 電話〇三(三三〇〇)八一六 FAX〇三(三三〇〇)八一八〇</p>	<p>参議院議員</p> <p>山本 順三</p> <p>東京都千代田区永田町二一―一 参議院議員会館一〇一九号室 電話〇三(六五五〇)一〇一―九</p>
<p>中華民國留日横濱華僑總會</p> <p>會長 洪 益芬 理監事一同</p> <p>神奈川県横浜市中区山下町一四〇番地 電話〇四五(六八一)二一四 FAX〇四五(一〇一)二八五五</p>	<p>後藤泌尿器科皮膚科医院</p> <p>院長 後藤 康文</p> <p>岩手県宮古市大通一―三―二四 電話〇一九三(六二)三六三〇</p>	<p>アジア問題懇話会 大陸問題研究協会</p> <p>會長 高野 邦彦</p> <p>〒二二六―〇〇二七 横浜市緑区長津田三―二―一九</p>	<p>学校法人 横濱中華學院</p> <p>校長 馮 彦國</p> <p>横浜市中区山下町一四二番地 電話〇四五(六八一)三六〇八 FAX〇四五(六七一)一〇七〇</p>

暑中お見舞い申し上げます

平成三十年

<p>株式会社永島製作所 代表取締役 永島 剛士</p> <p>石川県羽咋市寺家町タ一番九 電話〇七六七(一一)七〇一一 FAX〇七六七(一一)七〇一二</p>	<p>株式会社大海 代表取締役 並木 久</p> <p>神奈川県相模原市中央区 田名四七五三一八 電話〇四二(七一三)一六八五</p>	<p>株式会社和興産業 代表取締役 千葉 祐三</p> <p>東京都文京区千石三一四一八 サンセテア文京四〇二 電話〇三(三九四一)〇〇二八 FAX〇三(六九〇九)七〇三九</p>	<p>学校法人東京国際学園 東京外語専門学校 東京国際福祉専門学校 東京外語日本語学校 理事長 武田 哲一</p> <p>東京都新宿区西新宿七―三―一八 電話〇三(三三六七)一一〇三</p>
<p>一般社団法人亜東親善協会副会長 元衆議院議員 業務執行理事 並木 正芳</p> <p>〒三五九―一一二 所沢市泉町一七九三―一三一〇一</p>	<p>学校法人電子学園 日本電子専門学校 学園長 多 忠和</p> <p>おの ただかず</p>	<p>一般社団法人亜東親善協会 副会長 張 碧華</p> <p>東京都千代田区外神田三―七―七 電話〇三(三二五七)〇〇三三</p>	<p>一般社団法人亜東親善協会 副会長 張 建国</p>
<p>一般社団法人亜東親善協会 業務執行理事 柴田 徳文</p>	<p>一般社団法人亜東親善協会 理事 程 金笙</p>	<p>一般社団法人亜東親善協会 理事 崎谷 秀彦</p>	<p>一般社団法人亜東親善協会 専務理事 赤松 則宏</p>

暑中お見舞い申し上げます

平成三十年

<p>埼玉台湾総会名誉会長 一般社団法人亜東親善協会 理事 榎本 有里</p> <p>横浜市中区太田町二一三二一 電話〇四五(二二六)二三九八 FAX〇四五(二二六)二二八九</p>	<p>エイチアイインターナショナル株式会社 代表取締役 李 ハロルド</p> <p>東京都新宿区新宿五一七一一八 電話〇三(三三〇三)〇二二一 FAX〇三(三三〇三)〇二二九</p>	<p>新鮮で品質のよい花を FLOWER MARKET 花市場 青山店・代々木上原店 代表取締役 笹岡(朱) 恭亮</p> <p>代々木上原店 東京都渋谷区西原三一二一六 電話〇三(三四六六)五四四四 FAX〇三(三四六六)五四四六 http://hana-ichibanet</p>	<p>日本華商總會 理事長 林 冠銘</p> <p>東京都港区六本木七一五一〇 華商會館四F 電話〇三(三四〇八)四四六八 FAX〇三(三四〇八)〇三八二</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

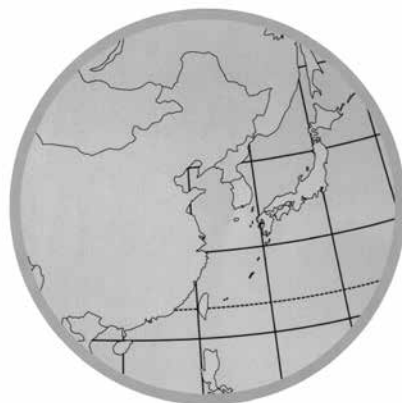


事務局だより

*新入会員のご紹介平成三十年四月一日～三十年六月三十日

加藤有一・澤口央・川井直哉・七戸淳

東アジアの民主と平和 友好親善にあなたの力を!!



友情と信頼
一般社団法人 亜東親善協会

只今、会員を募集しております。

入会の手続き

1. 事務局所定の入会申込書を提出していただきます。
2. 入会は、協会の理事会の議を経て承認されます。

法人会費 50,000円以上
賛助会費 30,000円以上
個人会費 10,000円以上

季刊 **亜東** (アジアの架け橋) 平成30年 夏季号 (No.66)

発行日 : 平成30年7月15日

発行所 : 一般社団法人亜東親善協会

発行人 : 大江康弘

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館別館2階

Tel : 03-3261-6405 Fax : 03-3556-5770

H P : atousinzen@nifty.com

印刷 : ヨシダ印刷株式会社



台湾の翼 チャイナエアラインなら、 うまくいく。

日台の架け橋であるチャイナ エアラインは
日本国内主要15空港から台湾へ最多の直行便を運航
豊富なフライトネットワークから、最適なフライトスケジュールをご提案
充実の法人プログラム
フルサービス航空会社ならお仕事でのご利用も安心
あなたのビジネスパートナーにチャイナ エアラインをお選びください



www.china-airlines.com/jp/jp